

洗心荘通信 2004 秋号



暑い夏が過ぎ、秋めいてきました



洗心荘 夏の風景です



7月29日 納涼会



今年は猛暑、炎暑と言われ、30 度以上の日が続きました。そんな暑い日々が続く中、洗心荘では、暑さを吹き飛ばそうと納涼会が行われました。夕方になるとやっと涼しい風が吹いてきて、だんだんと利用者、家族、ボランティアの皆さんが中庭に集まってきました。中庭は、飾られた提灯や屋台で夏祭りムードいっぱい！！いよいよ納涼会のはじまりです。



掻き氷、綿飴、おでん、五平餅、ラムネ、お酒、ジュース、金魚すくい、輪投げ、ぼんぼんと今年も多くの屋台が出店。利用者、家族、ボランティアの皆さんは各テーブルに分かれて座り、屋台を楽しみました。好評だったのが、暑い日にもかかわらず、とっても味がしみこんだおでんでした。金魚すくいは今年も好評で、多くの利用者の皆さんが挑戦しました。なかなかの手つきで金魚を次々とすくう利用者さんが多く、皆で楽しむことができました。お腹がいっぱいになった後は、皆で大きな円を作り盆踊りをしました。今年は、いつもの岡谷踊り、炭坑節に加えて、ボランティアの婦推協の皆さんが誕生会で披露してくれた『糸街音頭』も踊り、大変賑やかでした。





最後は花火大会。始めに手持ち花火を楽しみました。そして、前もって準備された打ち上げ花火35発に順々に点火。今回はドラゴン以外にもいろいろな種類の打ち上げ花火を混ぜました。さまざまな色の花火がきれいでした。最後は毎年恒例のナイヤガラです。一斉に点火されると、滝のように流れ落ちるナイヤガラ。ほんのわずかな時間で消えてしまいましたが、すべてが消えると大きな拍手が起こりました。今年の納涼会も、**四つ葉の会・きさらぎ会・婦推協・長野福祉大学生・松本短期大学生**と多くのボランティアの方々に協力いただき無事開催することができました。ありがとうございました。

8月4日 スイカ割り



8月の生活潤い行事としてスイカ割りを行いました。猛暑のため屋外を予定していましたが、食堂で円陣を組み中央にシートを敷き行いました。スイカ割りをやってみたいと希望された、野口さん、臼田さんに加え細木さん、林さん、藤森さん、切石さんが挑戦されました。木刀を使ってのスイカ割りは木刀が少し重かった方もいたようですが、皆さん元気に見事に割って下さいました。スイカ割りの後は割れたスイカを全員で頂きました。甘くて美味しいスイカを食べ暑さも忘れたかのような楽しい行事になりました。そこで一句。



☆木刀の 腕前さえる スイカ割り

☆スイカ割り どこだどこだで 大笑い

8月7日 かき氷会



暑い日が続く、利用者の皆さんも職員（！）も楽しみにしていたかき氷会。午後、食堂に集まってくる利用者の顔には笑顔・笑顔。テーブルに着く前から注文される方も多く、職員はフル稼働でも間に合わないくらいでした。すると外では雷が鳴り始め、大雨も降り出してきました。暑さも心なしか落ち着いていて、ゆったりとした時間が過ぎていきました。利用者の方のおかわりも多く、色々な味を楽しんでいました。利用者も職員も会話が弾み、笑い声が絶えない楽しい時間でした。



新入職員紹介



新入職員の小口真美です。岡谷で介護職に就くのが夢でこの6月に夢が叶いました。この仕事を始めて毎日充実した日々を送っています。新設のユニットケアに向けてこれからの皆さんの知識や技術を身に付けていきたいと思えます。頑張りますのでよろしくお願いします。

奥野さん 100歳のお誕生日おめでとうございます



7月5日に奥野ますのさんが満100歳のお誕生日を元気に迎えられました。現在、新施設移転に向けて限られた条件の中でユニットケアを実践していますが、奥野さんはそのユニットの中の中心的存在です。お誕生日当日も、顔馴染みのユニットの仲間と祝いました、お昼は「鯛の尾頭付き」で豪華な祝い膳が用意されて、アレンジメントフラワーが所長より手渡されました。また、ユニットの仲間と職員から口々に「100歳おめでとう！」と声を掛けられ、笑顔で記念撮影も！！

← 御祝いの鯛の尾頭付き

その後、甥御さんの面会もあり奥野さんにとって思い出に残る一日になったのではないのでしょうか。ユニットでは、朝のみそ汁作りから皿洗い・片付けなどして頂いていますがその姿は、とても百歳とは思えません。来年も再来年もお元気で誕生日が迎えられることを楽しみにしています。



みんなで記念撮影

ユニットに向けて ユニットケア試行



新型特養移行に伴い6月より、朝から夕方まで1日ユニットケアを実施してみる事となり準備を始めました。ユニットケア内容については、朝のあいさつ「おはようございます」から、まず始めに何をしますか？の問いより、ケア内容・看護・栄養士・相談員の注意点・観察点をふまえてマニュアルを作成して行きました。

リビングについても、施設の一部をカーテンで仕切り、テーブル・椅子・TV・冷蔵庫等の家庭用品を置き居場所としてリビングの環境を調べました。

食事についても利用者と一緒にご飯を炊き、お味噌汁を作る。おかずについては大皿で配膳し取り分けをしてもらうようにしました。食器についてもプラスチックではなく、昔からなじみのある陶器を使用し、準備・片付けも一緒に行い利用者主体で役割分担してやっていくようにしました。

実際ユニットケア実施初日については、食事の準備・配膳・片付けについては職員がやるのがあたりまえの生活だった為か、見ているだけでなかなか手が出ませんでした。こちらからの働きかけに対して、やって頂ける方もいましたが自発性はありませんでした。が、会を重ねるごとに、利用者同士が協力し合う姿勢も生まれてきました。例えば、自発的に取り分けたおかずを隣りの人に手渡しでまわして頂いたり、食事の片付けも出来ることをやって頂いたり、それぞれの役割分担が確立されていきました。

ユニットケアをやってみての感想としまして、集団処遇の中ではただ「食べて？もういらなの？」等の声掛けぐらいしかできませんでしたが、一緒にご飯を食べて寄り添うことで、食の進まない方について「この味付けおいしいよ」と味を共有しすすめる事もでき、今まで以上に利用者の状態・変化等を観察できるようになりました。一緒にいる時間が長くなった分、今まで見えなかった部分も見えてきて、その人らしい個性をいかしケアに繋げていくことが出来るようになったと思います。

医務室便り

呆けないための生活術

現代医学検査の発達により「頭の中」がよく分かるようになってきました。正常な人と比較した場合、呆けている人は脳に流れる血液の量が少ないことも分かってきました。逆を言えば、脳に常に血液が十分に流れ込んでいれば呆けないということです。

では、いったいどんな時に脳に血液がより多く流れるのでしょうか？

- 天気の良い朝などに散歩をしている時
- 好きな趣味に打ち込んでいる時
- スポーツの試合などに夢中になっている時
- 恋愛をしている時

「血めぐりの悪い人」は呆けやすいということなので、施設の中に居ても心地よい風に吹かれたり、緑の芝生を眺めたり、生け花の花を観察したり、花の香りを楽しんだり、訪れてくれる園児やボランティアの方々の笑顔に触れるなどで、脳の血液の循環を良くするような生活を更に手助けしていけたらと思います。



>>> 新任の生活相談員を紹介します<<<

丸山生活相談員の産休に際し8月21日付で後任となりました山田美智子です。洗心荘で三年間、介護職員として勤務した経験を生かし利用者みなさんの立場になって安心とやすらぎのある生活を送っていただけるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

新・センシンソウのモデルルームが完成しました。職員で見学に行きましたが、なかなかイー感じの居室になっているなと思いました。残念ながらまだ一般には公開はしていませんので、もうしばらくお待ちください。お楽しみに！

新・洗心荘モデルルーム完成



編集後記

○異常に暑かった夏も終わりました。夕食後にエプロンを片付ける時に、つい先日までは明るかったのに暗くなってきました。もう、秋ですね（長谷川）

○スポーツの秋。悩みの種は筋肉痛。そんな時におすすめののが、スポーツの後の軽めのストレッチとビタミンB剤。一度お試しください。（山田）

○早いもので本年度もあっという間に半年が過ぎてしまいました。来年オープンを控えた洗心荘の建設工事はおかげさまで順調に進んでいます。ハードは揃っているのにソフトが伴っていないと言われるような、只今、職員一丸となってユニットケア実現に向けての取り組み及び運用計画を検討しております。地域福祉の向上に向けてますます頑張らねばと思っております。（上）